

福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成27年3月号）

福島第二原子力発電所1～4号機は、安定した燃料の冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

緊急時を想定した原子力防災訓練を行いました

- 3月18日、原子力災害発生時の事態の収束・復旧に向けた総合的な対応を確認するため、原子力防災訓練を行いました。本訓練は、原子力事業者防災業務計画※等に基づき、年1回実施しているもので、今回は初めて、当所と福島第一、本店との連携訓練を行い、総勢約720名が参加しました。
- 訓練では、地震や津波によって外部電源や冷却機能等が失われた状況を想定して、電源確保のための電源車出動やケーブル接続、ガレキ撤去に向けた重機の出動などの実動訓練を行いました。
- 今後、訓練について評価、改善を行い、緊急時の対応能力を高めます。なお、今回の訓練には、原子力規制庁の検査官も参加しており、福島県および立地町（富岡町、楡葉町）による視察が行われました。



指示を出す緊急時対策本部長（所長）



ガレキ撤去に向けた重機の出動



電源車へのケーブル接続



けが人（模擬）の身体汚染の確認

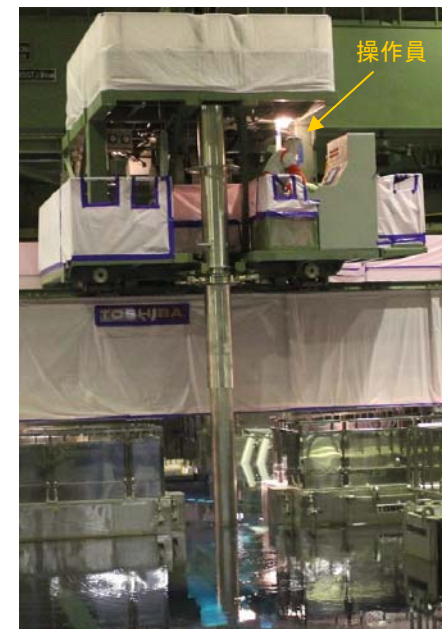
※ 原子力災害対策特別措置法に基づき、原子力災害の発生および拡大の防止、ならびに原子力災害時の復旧に必要な業務等について定めたものです。

3号機の燃料移動が完了し 全号機の燃料移動が完了しました

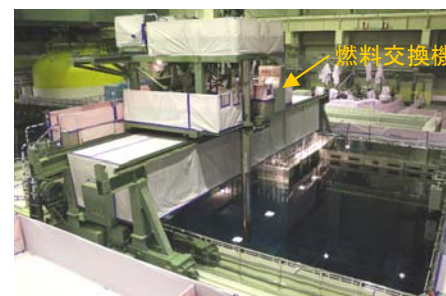
- 3号機において2月27日から開始していた使用済燃料の移動作業は、3月24日に完了しました。原子炉内の全764体の燃料は、約1,200の手順を踏んで使用済燃料プール内に移しました。
- 作業を安全最優先に進めていくため、事前に安全点検を行い、是正措置を行ったうえで作業を進めました。作業中は、中央制御室、燃料交換機室、燃料交換機上に専任の人を配置し、3者間で連絡を取り合い、手順を確認し合いながら慎重に進めました。
- 3号機の燃料移動が完了したことで、当所の全号機で燃料移動が完了しました。今後、すべての燃料は使用済燃料プールで一括管理していきます。引き続き、安定した燃料の冷却に取り組みます。



燃料交換機室



使用済燃料プールへの移動



使用済燃料プールへの燃料の格納

作業に潜む危険を予知するために 体感研修を開催しました

- 人身災害の防止に向けた取り組みとして、3月中旬の3日間、体感研修を協力企業とともに開催し、作業員の安全意識の向上をはかりました。
- 3日間合計で所員約140名、協力企業約110名、計約250名が参加しました。研修では、落下、はさまれ、転倒といった危険な作業状況が指導員により実演されました。それぞれ日常的に行っている作業に関連しているため、多くの参加者が自分にも起こり得ることとして受け止めていました。
- 今回の研修は、身近な作業や作業現場に潜む危険を作業員一人ひとりが予知する力を身に付けることで、人身災害の防止につなげていくことを目的としています。今後とも、危険予知に役立つ研修の実施等を通じて、人身災害撲滅に向けた取り組みを進めていきます。



足場パイプ落下による衝撃体感

※足場パイプを約7mの高さから落下させたところ、ヘルメットを突き抜け、中の植木鉢が割れました。



重量物取り扱い中の指の挟まれ体感



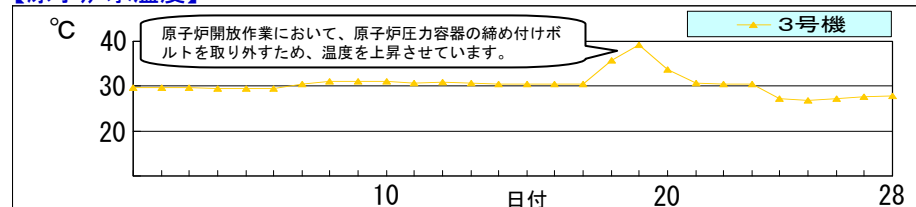
脚立上作業の墜落模擬体感

【プラントデータ】

燃料の冷却状況（2月分）

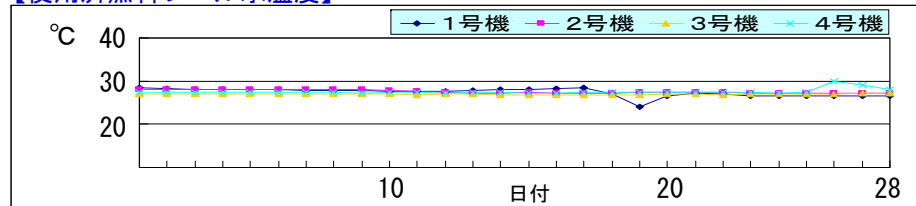
原子炉水および使用済燃料プール水の温度は、約30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。

【原子炉水温度】



1号機は平成26年7月10日、2号機は平成25年10月16日、4号機は平成24年10月24日

【使用済燃料プール水温度】



さらに詳しい情報は当所ホームページをご覧ください。

<URL>

<http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>

<QRコード>



偵察用ロボットの操作訓練を行いました

- 原子力災害の際には、放射線量が高い場所で放射線量、温度といったデータの測定や状況確認等が必要となります。現在、国内の原子力発電所では、こうした事態に備えてロボットを活用する取り組みが進められています。今回、原子力緊急事態支援センターの協力を得て、当所で初めてロボットの操作訓練を実施しました。
- 今回の訓練では、遠隔操作により、階段の昇降や障害物の回避、ロッカー扉の開放等の基本操作を行いました。
- 今後とも、こうしたロボットの活用を含め、緊急時における対応力の向上をはかっていきます。



遠隔操作



階段の昇降



扉の開放